

# 誤植の殿堂『説日語』

— その誕生と変遷（十一）

こく ぶ けん じ  
國 分 建 志

## 1. はじめに<sup>(1)</sup>

前々稿と前稿（國分 2019b, 2021）では、陝西版『説日語』の5種類の海賊版について考察したが、これらはみな正規版を丸ごと模倣したものであった。一方これとは趣を異にする海賊版として國分 2011 で紹介した f（風来坊本<sup>②</sup>）がある。f は風来坊氏が 2003 年頃に成都で入手したテキストで、『説日語』に由来する例文・例語と出典不明のものとが混在する、いわば「ハイブリッド型」テキストである。このうち前者について当初は西北版からの流用と考えていたが、その後の調査の結果、前々稿でも触れたように西北版の前身である陝西版が由来であることが判明した。さらに f とよく似たテキストが複数あることも分かってきた。そこで本稿ではこれらを「f 系」と呼び、その特徴について探ってみたいと思う。

## 2. f 系テキストの種類

f について以前はその 1 種類の存在しか分かっていなかったが、その後徐々に類似のテキストが見つかり、現在では 9 種類に増えている。このうち 3 種は奥付に編者として李力保民ではなく曲永紅という名が記されているなど違いも見られるが<sup>(2)</sup>、全体的にはかなり一致した内容を持っている。

## 3. f 系が依拠した正規版

f 系は西北版を模した装丁をしていることもあり、当初は西北版の海賊版に分類していた。しかしその後あらためて陝西版と西北版の本文の主だった異同（例文・例語の有無や、語やフレーズレベルで違いがある箇所）と f 系の本文を比較したところ、下表のよう

に本文については西北版より陝西版と一致することが分かった<sup>(3)</sup>。つまりf系は西北版の前身の陝西版から例文・例語を流用していたのである。

ページ	陝西版	西北版	ページ	f系
15	阿西他拍克医恩唉医克医妈斯	挖他西挖阿西他拍克医恩唉医克医妈斯	22	阿西他拍克医恩唉医克医妈斯
41	お名前は。		43	お名前は。
79	でんわはなんぼんですか。	でんわばんごうはなんですか。	120	でんわはなんぼんですか。
97	克医油一※「龍」のルビ	他此	141	克医油一
180	元		153	元
195	パン		161	パン
195	前菜		162	前菜
197	牛肉		165	牛肉
198	辣椒と肉	唐辛子と肉	166	辣椒と肉
200	中国宴会，汤总是最后上，西餐总是先上汤。	中国宴会，汤总是最后上。	169	中国宴会，汤总是最后上，西餐总是先上汤。
212	野菜		190	野菜
226	端午节	※日本語とルビのみ	211	端午节

またすでに明らかにしたように，陝西版には初期に刊行されたテキストと，それに例文・例語を19個加えた実質的な「増補版」がある。そこで増補箇所とf系との対応関係も調べたところ，下表のように11箇所が対応した。このことからf系は陝西版の中でも後発の「増補版」を元に作られた可能性が高いことも分かった<sup>(4)</sup>。

ページ	陝西版「増補版」の増補箇所	ページ	f系
1	失礼します		
20	これは，日本語で何と言いますか		
21	あなたは中国語ができますか？ ちそつとできます		
54	すみまやん。あれはなんですか。	50	すみまやん。あれはなんですか。
70	あなたははかりますか？	56	あなたははかりますか？
123	……がほしいんですが，どこにありますか		
155	すみまやん。小包を東京に送りたいんですが，いくらかかりますか		

168	どんな症状ですか。		
174	为替を現金に替えます。	146	为替を現金に替えます。
183	いらつしやいまや、そちらへどうぞ。		
184	どうもありがとうございます。		
198	日本料理	166	日本料理
237	ベンヲチ	224	ベンヲチ
237	洗剤	225	洗剤
237	クリーナー	225	クリーナー
237	バクツ	225	バクツ
237	レギ	225	レギ
237	かなづち	225	かなづち
237	ドライバー	225	ドブイバー

#### 4. f 系の構成

f 系は陝西版に依拠しているが、両者の構成は下表のように異なっている<sup>(5)</sup>。

陝西版	f 系
表紙	表紙
表紙裏	表紙裏
遊び紙	扉
扉	白紙
奥付	《前言》(4 p)
《目录》(2 p)	《日文字母五十音图的发音》(7 p)
《前言》(4 p)	《浊音和半浊音发音对照表》(4 p)
《日文字母五十音图的发音》(7 p)	宣伝文
《浊音和半浊音发音对照表》(4 p)	《目录》(2 p)
白紙	本文 (225 p)
本文 (237 p)	白紙
白紙	奥付
裏表紙裏	白紙
裏表紙	裏表紙裏
	裏表紙

陝西版の扉には“说日语 李保民編 陝西旅游出版社”と記されているが、f系では9種のうち8種で“新编说日语 陝西旅游出版社”に改められ、残りの1種（曲永紅編の一つ）も“新编说日语 西北大学出版社”となっている。いずれも「新編」と冠して『説日語』の改訂版であることをアピールしているかのようなのである。

一方奥付については、曲永紅編の3種を除く6種で西北版の記載を踏襲し、編者には李力保民の名を挙げており、6種はレイアウトも一致している。

本文については、陝西版や西北版が237ページあるのに対して、f系は225ページしかない。例文・例語数は1030個で、陝西版初期テキストの1115個、同「増補版」の1134個、西北版の1127個に比べてやや少ない。

本文の構成も下表に示すように陝西版とは異なっている<sup>(6)</sup>。

陝西版	f系
一、常用会话（问候、感谢、话别、介绍、歉意、约会、问路、谈话）	一 常用会话
二、家庭成员	二 初次见面
三、交通（问路、出租车）	三 问路
四、数字、日期、时间和量词	四 数字、时间、日期
五、购物（问候、接待、式样、价格、付款）	五 买东西
六、在旅店和海关	六 在餐厅
七、在邮局和打电话	七 看病
八、在医院	八 在邮局
九、货币兑换	九 在宾馆
十、在餐馆（接待、食谱、餐具、鲜花）	十 在海关
十一、工农业	十一 家庭成员
十二、文化体育	十二 交通（问路、出租车）
十三、一些常用单词	十三 序数、数量、重量、长度
\	十四 货币兑换
	十五 烹饪、鲜花
	十六 工农业、文化体育
	十七 常用单词

全17章中、第1章（常用会话）から第10章（在海关）まで（p.1～p.110）は、例文・例語の中国語訳に番号が振られている。ただし第2章（初次见面）では途中から番号がな

くなり (p. 17～p. 60), 第4章 (数字、時間、日期) (p. 69～p. 78) はまったく番号が振られてない。番号は各章「1.」から始まり、2, 3語を一括りにして振る場合もある。第10章までの例文・例語 464 個のうち 244 個に番号が振られている。

一方、第11章 (家庭成員) 以降 (p. 111～p. 225) の 566 個には番号が振られていない。

## 5. 例文・例語の特徴

まず例文・例語の表記上の特徴として、漢字に簡体字を多用していることが挙げられる。また日本独特の字体の漢字について、偏旁を組み合わせて不正確ながら再現している所もある<sup>(7)</sup>。

次に例文・例語の配置について、陝西版由来のものが全章に見られる一方で出典不明のものは第2章後半を除く第1～10章にしか現れない。上述のようにここは基本的に例文・例語に番号が振られている箇所、ここに限って由来の異なる例文・例語が混在していることになる。

それ以外の箇所、つまり番号が振られていない第2章後半と第11章以降の例文・例語はすべて陝西版に由来している。

以上の状況を整理すると下表のようになる (有・無を○・×で示す)。

章	番号の有無	陝西版由来の例文・例語の有無	出典不明の例文・例語の有無
第1～2章前半	○	○	○
第2章後半	×	○	×
第3章	○	○	○
第4章	×	○	○
第5～10章	○	○	○
第11～17章	×	○	×

さらに陝西版由来の例文・例語には、陝西版からそのまま流用したものだけでなく、元の語句の一部を書き換えたようなものも見られる。そこで次節では例文・例語を

- ① 陝西版からそのまま流用したもの
- ② 陝西版の一部を書き換えた可能性があるもの
- ③ 出典不明のもの

の三つに分け、それぞれの特徴を述べていきたい<sup>(8)</sup>。

### 5.1. 陝西版からそのまま流用したもの

陝西版からは数多くの例文がそのまま流用されているが、その中には原文を（ほぼ）忠実に踏襲したものもあれば、海賊版の常として新たな誤植が生じているものもある。またその一方で原文の誤植等を修正したような場合も見られ、この点はf系の一つの特徴と言える。以下ケースごとに主な例文を示す。

#### 1) 陝西版を（ほぼ）忠実に踏襲したもの

すみません。あれはなんですか。(陝西 p.54, f系 p.50)

わたしはうれしいですね。(陝西 p.58, f系 p.54)

ふたつはずんぶすきです。(陝西 p.63, f系 p.59)

タクシーで税関つ行きます。(陝西 p.90)

→タクシーで税関つ行きます。(f系 p.132)

あなたがわたしに細かい金をくださいませんか。(陝西 p.182)

→あなたがわたしに細かい金をくださいませんか。(f系 p.155)

あなたは海味がすきですか。(陝西 p.199, f系 p.168)

#### 2) 誤植のない原文に新たに誤植が生じたもの

ようこそ、いらっしゃいました。(陝西 p.2)

→ようこそいらっしゃいました (f系 p.9)

どうぞご飯を食べてください。(陝西 p.7)

→どうぞで飯を食べてください。(f系 p.18)

いいえいまひまがありませんいそがしいですから (陝西 p.47)

→いいえいまひまがありませんいそがしいでいら (f系 p.48)

たのしみに遊びをお祈りします。(陝西 p.58)

→たのしみた遊びをお祈りします。(f系 p.54)

ここからどのぐらいのとおさですか。(陝西 p.80)

→ここからどのぐらいのとわさです。(f系 p.121)

ねだんがごうりです。(陝西 p.85)

→わだんがでうりです。(f系 p.126)

いらっしゃいませ。(陝西 p.119)

→いらっしゃいませ (f系 p.79)

#### 3) 誤植を含む原文にさらに誤植が生じたもの

ちよつとまったらいいでくようか。(陝西 p.45)

→ちよつとまったらいいでくようい。(f系 p.46)

何の意見があればなんなりとおつしゃってください。(陝西 p.46)

→何の意見があればなんなりとおつしやつてください。(f系 p.47)

わたしはおとうとに手紙を書いてあげます。(陝西 p.60)

→わたしはおとうちに手紙を書いてあげます。(f系 p.56)

色も見た目に美しいし味もおいしいし。(陝西 p.186)

→色も見た目に美しいし味もおいしいし。(f系 p.156)

#### 4) 原文の誤植や誤用を修正したもの

きよろは何曜日ですか(陝西 p.111)

→今日は何曜日ですか(f系 p.76)

为替を現金に替えます。(陝西 p.174)

→为替を現金に替えます。(f系 p.146)

氣候がいい(陝西 p.210)

→气候がいい(f系 p.188)

#### 5) 修正と改悪が並存しているもの

タクミーはねだんがちょっとたかいです。(陝西 p.81)

→タクシーはわだんがちよつとたいです。(f系 p.122)

なお例文・例語を流用する際にf系の製作者が中国語訳やルビに手を加えた形跡が見られることがある。例えば「旅行案内はありますか。」(陝西 p.79, f系 p.120)のルビには次のように違いがある。

辽靠一安一那衣哇, 啊利吗丝咖(陝西版)

辽靠一安一那衣哇, 阿力马思咖。(f系)

しかしこうした異同が大きくなってくると、はたしてその例文・例語が本当に陝西版からの流用なのかという疑問も生じてくる。例えば次の例ではルビがまったく異なっている。

〔ごめんください。

高麦恩枯大萨衣(陝西 p.6)

〔ごめんください

搞门苦搭飒一。(f系 p.3)

また次の例では中国語訳にも違いがある。

〔你多大岁数?

おいくつですか。

噢衣枯次代丝咖(陝西 p.42)

〔你多大年龄。

おいくつですか

噢一哭疵呆斯咖。(f系 p.5)

さらに日本語の表記にまで異同が見られる場合もある。

〔你要喝点什么?

何を飲みますか。

〔那你奥, 舜咪吗丝咖(陝西 p.187)

〔喝什么?

なにをのみますか。

〔娜妮噢、舜咪妈斯咖。(f系 p.87)

さらに付け加えれば、ここに示した例文はみな『説日語』以外の会話集にも出てきそうな常套句や簡単な表現で、こうしたものは出典の見極めがさらに難しくなる。本稿ではこのようなものも陝西版からの流用と見なしたが、実際には別の資料が由来である可能性も否定できない。

また f 系には次のように陝西版の例文・例語を繰り返して使う場合がある。

- |   |   |                               |
|---|---|-------------------------------|
| → | { | 票已买好了。                        |
|   |   | 切符はもう買いました。                   |
|   |   | 克医扑哇，毛—卡衣吗西塔（陝西 p. 90）        |
| ? | { | 票已买了。                         |
|   |   | きつぷはもう買いました                   |
|   |   | kì（停一拍）扑哇、帽、卡衣妈西它。（f 系 p. 68） |
| → | { | 票已买好了。                        |
|   |   | 切符はもう買いました。                   |
|   |   | 克医扑哇，毛—卡衣马西塔。（f 系 p. 132）     |

このケースについても p. 132 の方は陝西版が由来と見なせそうだが、p. 68 は日本語表記、中国語訳、ルビのすべてに違いがあり、こちらも陝西版から流用したのかどうかは即断しがたい。

## 5.2. 陝西版の一部を書き換えた可能性があるもの

f 系には陝西版と部分的に重なる例文もよく観察される。これらが陝西版を書き換えたものなのか、他の資料から類似の表現を流用したのかはやはり判断に苦しみどころだが、ひとまず以下に実例を挙げておく（本来あるべき表現・表記を補う場合、〔 〕で示す）。

### 1) 加筆

おツりです。（陝西 p. 118）

→二千丹のおつりです。（f 系 p. 83）

メニューをください。（陝西 p. 184）

→メニューを見せてください。（f 系 p. 88）

### 2) 削除

私をご紹介します。（陝西 p. 33）

→ご紹介いたします（f 系 p. 8）

甘い物、塩辛い物、物、辛い物はどれが口に合いますか。（陝西 p. 67）

→お口に合いますか。（f 系 p. 89）

この品物は売り切れました。（陝西 p. 120）

→売り切れました。(f系 p.81)

あたまが痛いですか。(陝西 p.167)

→頭カじ〔頭が〕 いたいです。(f系 p.95)

### 3) 例文を合成したもの

はじめまして(陝西 p.3) + どうぞよろしく。(陝西 p.3)

→はじめましてどうぞよろしく (f系 p.2)

### 4) 別の語句への置き換え

奥さんによろしくお伝えください。(陝西 p.17)

→みなさまによろしくお伝えください (f系 p.7)

路線図を書いてください。(陝西 p.80)

→駅までの地図を書いてください (f系 p.65)<sup>(9)</sup>

ぜんぶで二十元です。(陝西 p.85)

→ぜんぶで三十元です。(f系 p.126)<sup>(10)</sup>

代金を払う (陝西 p.138)

→税金を払う (f系 p.110)

医者に見てもらいまはしよ。(陝西 p.166)

→お医者さんに見てもらったほうがいいです。(f系 p.96)

風邪を引きまくた。(陝西 p.167)

→風邪を引いたのではうか。(f系 p.95)

### 5.3. 出典不明のもの

上述のように、出典不明の例文・例語は第2章後半を除く第1~10章にしか現れない。  
主な例文に次のようなものがある。

お目にかかふととてもうふしく思っております (p.2)

ごちそうちまでした (p.6)

いつてきます (p.6)

いつてらつせい (p.6)

ただいま (p.6)

お归〔帰〕りなさい (p.7)

どこかでお会したようです (p.9)

ふざやざ〔わざわざ〕お出迎えいただきありがとう (p.10)

お疲ふになつたでほう (p.10)

証券会社に勤めています (p.11)

- 西の郊外に住んでいます (p. 12)  
 何人家族ですか (p. 12)  
 よらよつと [ちょっと] すみませんが (p. 61)  
 このあたりに銀行がありますか (p. 63)  
 いつはに [いっしょに] 行きまはう。 (p. 69)  
 少しまけてくれませんか (p. 80)  
 よくにあいます。 (p. 81)  
 九割引きできます。 (p. 82)<sup>(11)</sup>  
 やつと买えました。 (p. 84)  
 なんでもけつこうです。 (p. 88)  
 顔色カじ悪い [顔色が悪い] ですぬ [ね]。 (p. 94)  
 お医者さんに見てもらったほうがいいです。 (p. 96)  
 一回は二錠です。 (p. 97)  
 まず 0 をまれす (p. 103)  
 部屋にかぎを忘れました。 (p. 106)  
 サービスカじいいです (p. 107)

また出典不明の例文・例語には、日常の事物を表す語句として陝西版にはないものが新たにいくつも盛り込まれている。以下に主なものを挙げる。

証券会社 (p. 11), 郊外 (p. 12), スポーツ (p. 13), 新宿 (p. 63), 地図 (p. 65), 自動車 (p. 67), 婦人服, 売り場 (p. 78), 指輪 (p. 81), 割引き (p. 82), 閉店, 开店 (p. 83), T シヤツ, 財布 (p. 84), ネットクシス, かぼん, ウオクマニ [ウォークマン], イヤホニ, 洋服, スーツー, シルク, カシミヤ (p. 85), いんかん (p. 86), コーラー (p. 88), 和食, 西洋料理 (p. 93), さしみ, てんぶら, 顔色 (p. 94), お医者さん (p. 96), 血液検査 (p. 98), 西安 (p. 99), お宅 (p. 101), 速達 [速達], 宅急便, 国際電話 (p. 102) フロソト (p. 103), 南向きの部屋, クリーニング (p. 104), アイロン, ベル (p. 105), モーニングコール (p. 106), ルームサービス, シングル, ツイン (p. 107), スーツケース (p. 109), 免税 (p. 110)

なお次の二つの語句は大変珍しく、現在では死語に等しいものであろう。

目かたをかける (p. 101)

「重さを量る」意味であるが、現在の標準語としては「目かたを量る」か「秤にかける」が自然であろう。国立国語研究所が構築した『現代日本語書き言葉均衡コーパス』を検索すると山下清による使用例が1件だけ検出された<sup>(12)</sup>。また古い用例としてはJ.C.ヘボンの『和英語林集成』(初版は1867年)に「mekata wo kakeru」とあるのが見える<sup>(13)</sup>。

ウナ電〔電〕を打つ (p.101)

『日本国語大辞典』(第2版)「ウナ」の項には、

(「至急」の意の〔英〕urgentの二文字u・rのモールス符号に相当する仮名をあてたもの)至急電報の略号。昭和五一年(一九七六)廃止された。ウナ電。

と解説されている<sup>(14)</sup>。

これらは今後、出典不明の例文・例語の由来を探る上で何らかの手がかりになる可能性がある。

## 6. まとめ

本稿ではf系海賊版の特徴を探ってきたが、その結果次のようなことが明らかになった。

① f系は装丁等では西北版を模倣しているが、例文・例語は出典不明のものを除き陝西版から流用しており、実質的には陝西版の海賊版だと言える。

② f系が依拠したのは陝西版の中でもその「増補版」である。

③ 陝西版由来の例文・例語が全編にわたって見られるのに対して、出典不明のものは配置が一部の章に偏っている。

④ 陝西版由来の例文・例語の中には、新たに誤植が生じたものがある一方、誤植等を修正したり、一部を書き換えたりしたようなものも見られる。ただし陝西版との異同の程度によっては、本当に陝西版が由来なのか、それとも別の資料からの流用なのか判別が難しい場合もある。

⑤ 出典不明の例文・例語には、日常の事物を表す語句として陝西版にはなかったものが新たに多く盛り込まれている。

⑥ その一方で、現在ではすでに死語となったような語句も見られる。

## 注

(1) 本研究は現代中国における日本語受容の様相の一端を明らかにすることを目的に、1990年代に出版され日本では誤植満載の本として知られる日本語会話集『説日語』に注目し、諸テキストの特徴やそれらの関連について探ったものである。

これまでの研究で『説日語』が何度も改訂されてきたことや、正規版以外にも多種多様な海賊版が存在することが判明したほか、正規版と海賊版との関係も徐々に解明されつつあり、本稿もまたその延長線上にある。詳細は「誤植の殿堂『説日語』——その誕生と変遷(一)~(十)」を参照されたい。

(2) この3種は他の6種と全体の構成が異なる上、扉や奥付の表記や本文のフォントにも違いが見られる。またそのうち2種は本文が219ページしかない。9種のテキスト間の相違については稿を改めて取り上げたい。

- (3) 陝西版と西北版との間に大きな異同がある例文でも、f系に対応するものがない場合は表に含めていない。なお西北版のデータは手書きタイプiにもとづく（iとiiでp.15の合成ルビ線の位置が異なる）。
- (4) f系の一部のテキストには手書き箇所もあるが、表では捨象する。
- (5) 曲永紅編の3種は構成等が異なるため、本章は主にそれ以外の6種について述べたものである。なおf系9種の構成は西北版とも一致しない。
- (6) 表は《目録》（目次）をそのまま引用して作ったが、両書とも本文中では表記が若干異なる場合があり、f系ではp.110までは一致しているが、p.111《十一 家庭成員》以降は異同がある。
- (7) 具体的には「駅」（p.62等）「軫」（p.67等）「願」（p.102）の3字がある。
- (8) 陝西版の側から見ればf系に流用されなかった例文・例語もあり、両テキストの性格の違いを探る上で興味深い分析対象であるが、今回は取り上げない。なお例語については流用かどうかの判断が難しいので、以下は例文を中心に引用する。
- (9) f系のp.121には陝西版とほぼ同じ例文も載せている。
- (10) なおルビは陝西版を踏襲して“尼就—”「ニジュウ」のままである。
- (11) この例文の中国語訳は“能优惠10%。”（一割引きできます）で、日本語とは大きく食い違う。
- (12) 山下1999（底本は1956）p.70に「検査をやる前にはお話がありました。背の高さを計ったり、目方をかけたり、腹のまわりを計ったり、目や鼻や口や、耳を見たり、目の検査をしたり、体操もやりました。」とある。  
 なお調査の中で次のように「目方にかける」という表現も見つかった。  
 しかし、目方にかけたのち、つぎのように叫ぶ：「水の中の小さな粒にも、重さがあるんだ」  
 （ピアジェ、インヘルダー著、滝沢、銀林訳、1992、p.149）  
 オットセイでも売るように目方にかけ、鹿の肉だといって売る。  
 （久生、2011、p.294）
- (13) ヘボンが同辞典編纂のために準備した手稿にもこのフレーズは見える。
- (14) 同辞典「ウナ」の項には明治33年の官報の用例が見える。また「ウナ電」の項には大正時代に編まれた新語辞典『新しき用語の泉』（小林花眠、1921、博進館）からの用例が挙げられている。また高村光太郎の昭和7年の詩に「五月のウナ電」という作品がある。さらに藤子不二雄<sup>Ⓐ</sup>の自伝的作品『まんが道』には、昭和30年頃を舞台に、主人公である漫画家コンビの元へ出版社からウナ電が届くシーンが何度も描かれている。  
 また「ウナ」には「ウナ電」以外の使われ方もあったようである。平藤2020に寄せられた「寿比南山 福如東海」氏のコメントに「今から約30年ほど前に銀行に勤めていた時には、至急振込扱いのことを、ウナフリと言っていました。そして、僚店（私の勤めていた銀行では同銀行間の意）や他行に何かを大至急依頼する時には、「ウナウナ、処理乞う」などと打電したものです。」とある。  
 なおFMK Morning Gloryの2010.7.8のブログで興和株式会社福岡支店 田中栄一氏が説明しているところによると、外皮用薬の「ウナコーワ」もこの「ウナ」に因んだネーミング（至急→素早く効く）だそうである。

## 参考文献

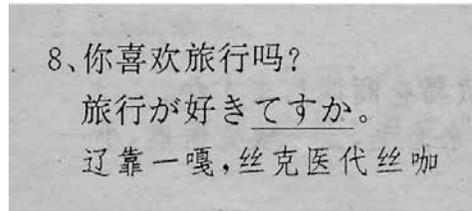
- 木村一, 鈴木進編, 2013, 『J.C. ヘボン 和英語林集成 手稿 翻字・索引・解題』, 三省堂
- 國分建志, 2011, 「誤植の殿堂『説日語』— その誕生と変遷 (一)」, 『文學藝術』 第35号, 共立女子大学文芸学部, pp. 15-36
- 國分建志, 2019b, 「誤植の殿堂『説日語』— その誕生と変遷 (九)」, 『文學藝術』 第43号, 共立女子大学文芸学部, pp. 53-62
- 國分建志, 2021, 「誤植の殿堂『説日語』— その誕生と変遷 (十)」, 『共立女子大学文芸学部紀要』 第67集, 共立女子大学文芸学部, pp. 49-62
- 日本国語大辞典第二版編集委員会, 小学館国語辞典編集部, 2000, 『日本国語大辞典』 (第2版), 小学館
- J. ピアジェ, B. インヘルター著, 滝沢武久, 銀林浩訳, 1992, 『量の発達心理学』 (新装版), 国土社
- 久生十蘭, 2011, 『パノラマニア十蘭』, 河出書房新社
- 藤子不二雄<sup>Ⓐ</sup>, 1986, 『愛蔵版 まんが道』, 中央公論社
- J.C. ヘボン, 1867, 『和英語林集成』, American Presbyterian Mission Press (復刻版, 1966, 北辰)
- 山下清, 1999, 『山下清「山下清放浪日記」』, 日本図書センター (底本は1956, 『山下清放浪日記』, 現代社)
- (インターネット)
- エフエム熊本, 2010.7.8, 「ウナコーワのヒミツ」 (FMK Morning Glory ブログ) (<http://blog.fmk.fm/glory-old/2010/07/post-89c9.php>) (2021.8.29 閲覧)
- 国立国語研究所, 2011, 『現代日本語書き言葉均衡コーパス』 (BCCWJ) (検索に「少納言」を使用) (<https://shonagon.ninjal.ac.jp/>)
- 平藤清刀, 2020.3.14, 「窓口業務終了→女子行員から「先輩、だいてください」「あの会社ヨウカンだよ」〈銀行編〉」 (まいどなニュース) (<https://maidonanews.jp/article/13210117>) (2021.8.29 閲覧)

## 付記 (補足と訂正)

①前稿 p. 54, p. 56 でテキストや例文により長音記号に長短があると述べたが, このうち「短い長音記号」としたもののついて, 活字としては漢数字の「一」と見なすべきであることが分かったので訂正する。特に a1, a2, 偽 a, 偽 b では大半が「一」を用いている。例証のため a1 から「一」を漢数字として使っている箇所と, 長音記号として使っている箇所の画像を示す (他のテキストでも同じようなフォントを使っている)。

日语的促音也要停一拍, 用“×”来表示。

漢数字としての用例: 「日本語の促音も 1 拍止める必要があるの  
で, 「×」で示す。」 (《前言》 p. 4)



長音記号としての用例：「旅行」のルビ (p. 4)

以上に鑑みて、前稿の本文や付表の中で以下の箇所は長音を「-」で示していたが、漢数字の「一」に訂正する。

	正規版		海賊版		論文中のページ数
	D	B1	a1, a2	偽 a, 偽 b	
p. 93			塔枯西一	踏枯西一	p. 54
p. 155			陶一克医奥	陶一克医奥	
p. 183	道一糟	道一糟	道一糟	道一糟	p. 56
p. 184			道一毛, 阿利俄阿陶一	道一毛, 阿利俄阿陶一	

②前々稿（國分 2019b）p. 60 で「（偽 a と偽 b には）字体の異なる漢字が四つあり」と述べた。これに関連して、両者は漢字「電」に対して一部の箇所では「電」という字体（下が「电」になる）を使っているが、その使用箇所が次のように両者で異なることが新たに判明したので、ここに補足する。

偽 a の「電」の使用箇所：p. 130, 159, 162, 206, 207

偽 b の「電」の使用箇所：p. 157 (2 箇所), 160 (2 箇所), 164, 205 (3 箇所), 216, 225, 234